



# 横尾中だより

校訓「自立」 〈学校スローガン No Challenge, No Chance〉

R5. 11. 17

第40号

発行者  
長崎市立横尾中学校  
校長 小浦 末浩

## ウィンタータイムの導入



本日、期末テストが終了いたしました。

ご家庭でのテスト勉強への取組は如何だったでしょうか。特に、3年生は三者面談も終わり、その意気込みを見せる良い機会となったテストだったと思います。先生方からの結果報告を楽しみにしておきたいと思います。1, 2年も同じで、一つ一つのテストを通じて自分の力を把握し、できなかったところの復習を必ず行い、1月の実力テストに向けて、更に力をつけてほしいと思います。なお、3年生は、1月は私立高校の入試が始まりますので1月の実力テストはありません。

さて、期末テストが終わりましたので、1, 2年生の中には、部活動の再開を楽しみにしている生徒も多いかと思います。

少し、心配しているのが、暗くなるのがかなり早まっている点です。学校では不審者対策として、部活動終了時刻を守らせ、一斉に下校させて1人になる時間帯を少なくするように配慮しております。今年度は例年に比べて部活動に入っている生徒が少なく、心配しております。

そこで、今年度は学校の中での時間を少し修正し、完全下校時刻を早めることにします。

## 研究発表会の下校時刻など



来週、11月24日(金)に、令和4年度・5年度、長崎県教育委員会・長崎市教育委員会の公募制研究指定校の研究発表会を開催いたします。

横尾小学校の河野校長先生のお話では、横尾小学校では授業を午前中に終了し、午後からは職員研修ということで、河野校長先生、井原教頭先生をはじめ全教員が本校の研究発表会に参加していただけるということだそうです。

本校の研究は、地域連携と長崎外国語大学連携を行っております。生徒には地域行事への参加を促し「地域貢献」を行い、長崎外国語大学への語学研修や留学生との交流を行うことで生徒の「学力向上」を意図して教育実践に取り組んでいるところです。地域の教育資源を最大限活用し、生徒が自分自身と地域の未来のために、自分で行動できる生徒の育成を目指しています。

ポイントは、ただ地域行事や外大との交流行事に参加することを主な目的とするのではなく、「自己効力感」(自分是可以、自分ならきっとうまくやれるという意識)を、日頃の授業や日常生活で育て、地域行事への参加、英検や家庭学習の取組につなげることをねらっています。日頃から、「挑戦」ということばをよく生徒に投げかけていることもこのためです。生徒が生涯にわたって、この自己効力感をもって、何事にも挑戦する人間であってほしいと願っております。人生は、成功することよりも、失敗し、痛い思いをしながらそこから何かを学び、立ち上がっていくことの方が多いと思います。実際、私自身もそうでした。是非、先の長い生徒たちには、成功することも大事ですが、うまくいかなかったことを悔やむのではなく、チャレンジした自分をほめ、失敗した原因を考え、再チャレンジしてほしいと思っています。難しいこととは思いますが…。

ということで、来週の金曜日(11月24日)は、変則的な日課となります。予定では、5校時を15:20分に終了し、その後、下校と考えております。

この日は、体育館、運動場が使用できませんので、水曜日の部活動停止日と入れ替え、この日を部活動停止日といたします。